



信太の森ニュース

No. 21

2015年6月30日



2015年5月連休過ぎの惣ヶ池湿地は周囲のモチツツジとキショウブで彩られます

あれよあれよという間に春が過ぎ去り、梅雨に入りました。惣ヶ池湿地のコナラ、アベマキも新緑から色を濃くし、夏緑に変わりつつあります。

この春の信太山丘陵は、ウグイスが盛んに鳴き、ヤマツツジに続きモチツツジが見事な景観を見せてくれました。

4月の観察会ではウグイスとヤマツツジを楽しんでいただきました。5月の観察会ではコモウセンゴケとイシモチソウの花を楽しんで貰ったのですが、5月の観察会としては何か物足りません。何が足りないかといえば、昔から和歌や短歌に多く詠い込まれたホトトギスの鳴き声を一声も聴くことができなかつたからです。

その数日後、惣ヶ池湿地のウシガエルのオタマジャクシ捕獲作業をしていると、近くでホトトギスの第一声をやっと聴くことができました。この一声で信太山丘陵らしさが蘇ってきた感じがしました。

そのホトトギスはウグイスの巣に託卵するそうです。旨く託卵して育てば、その雛は8月頃まで信太山丘陵にいるようですが、例年7月初め頃までにどこかへ去っていきます。

そんな信太山丘陵も市有地公園協議会による自然公園化に向けた保全活動が本格的に始まりました。少しずつですが、藪化した信太山丘陵市有地も一定整備された自然公園へと姿を変えていくことでしょう。

NPO法人 信太の森FANクラブ

事務局：〒594-0013 大阪府和泉市鶴山台3丁目4番1-202

電話 0725-45-7357

E-mail tamahati@amber.plala.or.jp

信太山丘陵公園協議会が発足

信太山丘陵市有地の自然公園化に向けては、これまで協議されてきたワークショップ基本構想に盛り込まれた公民協働による「公園協議会」ですすめていくことになりましたが、4月、5月の準備会を経て、6月11日に開催された総会により正式に公園協議会が発足しました。

この総会にFANクラブは団体代表委員として花田代表と特別委員（過年度ワークショップ市民委員）の事務局田丸、事務局の呼びかけに応じて出席いただいた8名の会員計10名が参加しました。

総会出席者は、学識経験者4名、町会委員2名、市民委員2名、団体代表委員2名、登録会員2名、市役所職員9名、団体一般会員10名の総数31名でした。

総会では、会員、市職員の紹介の後、会長、副会長の選出が行われ、会長には前年度ワークショップ検討会議での増田会長（大阪府大）が、副会長にはワークショップ作業部長であった藤原部会長（大阪府大）が選出されました。

総会における協議事項としては、平成27年度事業等概要として、次の①～④が提案されました。

①企画運営会議を9月と2月～3月に開催し、信太5号線等道路設計の進捗状況によっては11月～12月頃にも開催予定であること。

②現地保全活動では、活動日を原則第1日曜日とし、適宜ミーティングを行いながら、ネザサや草地、湿地や樹林等活動場所を決めていくこと。高木伐採など会員活動で対応しきれないものは市の事業（業者委託）としておこなうこと。

③人材育成事業について、市有地に関する知識や保全技術を有する人材を育成していくとして、試行的に保全管理講座を実施予定で

あること。この保全管理講座の講師には保全団体にも加わって貰う予定であること。

④イベント事業については、市有地の環境を市民に広くPRし、より多くの方に関心を持って貰うためにイベントを開催するとして7月26日に自然観察会（FANクラブが講師）を実施し、11月～12月に第2回を予定し調整していること。

これに対して会場からは、③の「人材」育成について、行政が人のことを人材というのは人権にも関わるもので如何なものか。②③④について、もっと広報で市民に知らせていくべきだ。との意見が参加者から出されました。

総会は、これまでのワークショップ会議の延長という感じを受けましたが、今後の公園協議会運営委員会では、もっとざっくばらんに意見を出し合いながらすすめていかなければならないと感じました。

公園協議会の保全作業日決まる

第1回総会に先立ち、前年度までのワークショップ作業部会メンバーにより「公園協議会準備会」として会合が行われました。

4月の会合で今後の保全作業日について協議され、保全作業を定例化して毎月1回実施していくことになりました。作業日は原則第1日曜日となりますが、作業日の決定は3ヶ月乃至4ヶ月毎に協議して決められます。第1日曜日で都合がつかない場合は協議により



ゲート脇の笹を刈り、作業用駐車場に

7月26日（日）の観察会は市及び公園協議会との合同観察会になります。多数の参加でイベントを盛り上げましょう。

他の日で調整されることとなります。

なお、作業日が雨の場合もあらかじめ予備日を決めることになっています。

作業時間は、基本的には9時～12時になりますが、暑くない時期には、作業内容により時間が延長される場合もあると思います。

集合場所は、鶴山台団地から蔭涼寺間の車道（信太5号線）の中間にある**ゲート内**（駐車可）になります。

ちなみに、6月の保全作業では、総勢27名の参加があり、駐車スペースをつくるため、ゲート内通路左右の笹刈り、ハチク林拡大防止のため、伐採したハチクの運び出しスペースとして草や笹刈りが行われました。

7月の作業日は

7月11日（土） 9：00集合

9：00～12：00

雨天の場合 7月18日（土）

「連絡会」の今後について

これまで里山自然公園を求める運動の初期段階から大きな力となってきた信太山丘陵に里山自然公園を求める連絡会は、公園協議会発足後、今後の対応を協議しました。

一応初期目的は達成したとはいえ、自然公園の開園が10年先であることから、市や公園協議会の動きを静観しつつ組織は解消せず、残していくことになりました。

惣ヶ池湿地保全作業

4月から6月の惣ヶ池湿地保全には延べ29名が参加しました。保全内容はスイレン抜取、外周柵の補修、アメリカセンダングサなど外来種の抜取、畦の草刈などを行いました。

スイレンの堀り取は、暑さで防水胴着が着れなくなるので一応4月で終了し、昨年の失敗を教訓に、堀取ったところにスイレンの根

が伸び広がらないよう波板や竹で作った簾を設置しました。（下写真）



スイレンの根の進入防止に竹簾を設置

外周柵の補修は、定例の保全活動日以外に月1回数人で実施していますが、1/7程度が済んだばかりです。この作業は今後の資材調達などを考えると補修完了にはまだ1年以上はかかりそうです。



外周柵補修を行うみなさん

湿地保全には、侵入した外来種の駆除作業があります。スイレンやキシウブのほかにアメリカセンダングサやセイタカアワダチソウが侵入しています。さらに厄介なのがウシガエルです。

それらのうちアメリカセンダングサは引き抜き易いこともあって、5月13日の作業日に女性の方に抜取作業を行って貰いました。

ウシガエルはカスミサキシウオを守るために駆除する必要があります。そのオタマジャクシにしても成体にしても動くので捕獲が難しくなります。5月、6月と2回、池に網を張り追い込むようにして捕獲作業を行ったのですが、1回目にオタマジャクシ7匹を捕獲しただけに終わりました。

惣ヶ池湿地にサンコウチョウが

ツキヒホシ ホイホイホイと鳴く鳥をご存知でしょうか。オスは尾が長く目の周りが青い美しい鳥です。月日星と鳴くところから三光鳥（サンコウチョウ）という名があります。しかし、ツキヒホシとはあまり聴きとれません。むしろ後のホイホイホイの方が聴きとり易くこの鳥であることがすぐ判ります。

5月6日、その日は天候もよく、惣ヶ池湿地の生き物調査を行うために出かけると早速迎えてくれたのが甲高い声で鳴くオオルリ。その近くでホイホイホイという鳴き声が聞こえてきます。えっ！信太山にサンコウチョウ？と耳を疑ったのですが、間違いありません。調査を終えて帰るまでオオルリとともに鳴いていました。夏の渡り鳥で、本来針葉樹林など薄暗いところで生活している鳥なので、その姿を見ることは容易ではありません。渡りの途中信太山に立ち寄ったのでしょうか。この日は、サンコウチョウばかりかつツドリも2回ほど鳴き声が聞こえました。信太山丘陵の豊かな自然が渡り鳥たちの羽休め場となり、私たちを楽しませてくれているんですね。

それから二週間後、植物調査に出かけた植尾山周辺でサンコウチョウと出あいました。完全な姿を見たのは初めて。巣作りをしていたようで、オス、メスとも写真に撮ることができて十分楽しませてくれました。



巣作りをしているサンコウチョウですが、その数日後、強風で枝が折れて巣が落下したようです。

「鍋谷峠より三国山方面の観察会」での雑記

鍋谷峠より三国山方面へ、この時期咲いている「イナモリソウ」、「クモキリソウ」の花の写真を撮りに行きました。鍋谷峠沿いの道端には「ホタルブクロ」、「キツリフネ」の花がきれいに咲いており途中停車しながらの道中でした。

今回の話題は予期せぬ蝶に出会い興奮しました。タテハチョウ類の「インガケチョウ」(別名「インガキチョウ」)です。南方系の蝶で石垣島ではよく見かける蝶で私自身半世紀ほど前高校時代に図鑑を見た時、「紀伊半島の古座町で見かける」とあり、当時は遥かに遠いところという意識で一度は巡り合いたいと思っていた蝶なのでびっくりしました。「イナモリソウ」の花を撮った後、ヒラヒラと優雅に飛翔する姿を見るのは初めてでした。タテハチョウ類は



すばしこく飛び回るのですが意外でした。インターネットで調べますと、

最近では地球温暖化のため、かなり北上しているとのことで大阪では金剛山千早赤坂付近、東大阪方面でも見つかっているとのことです。信太山丘陵でもその姿を見ることが出来たら素晴らしいなと思いながら記しました。

写真はヒメジヨンの花にとまり羽を広げて吸蜜している図鑑から取り出したような姿の「インガケチョウ」です。

追記。今回の観察地付近には「ショウジョウバカマ」、「フタリシズカ」等の群落地がありますが、今回は時期を外し残念でした。来年はこれらの花の時期の観察会企画を期待しています。～吉原～

編集後記：6月14日にヒグラシが、6月28日にはクマゼミが鳴きました。出現が早すぎます。このことは次号に。